

<p>第4学年 音楽科学習指導案</p>	<p style="text-align: center;">いろいろな音を組み合わせた響きを感じ取ろう</p> <p style="text-align: center;">日 時：平成21年10月〇日 指導者：広島市立〇〇小学校 教諭 〇〇 〇〇 児 童：4年〇組</p>
--------------------------	---

1 題材の目標

- いろいろな音の響きやその組合せを工夫してまとまりのある音楽をつくり、楽器の材質や演奏の仕方による音色の特徴やそれらの組合せによる響きのおもしろさを感じ取ることができる。

2 教材名 「ハウスミュージック」(アンサンブル・みみ曲) 「月光への碑文」(M・シェーファー曲)

3 題材について

- 本題材は、新学習指導要領2内容A表現(3)ア、B鑑賞(1)イ、及び〔共通事項〕(1)ア(ア)音色(音の組合せ)に関する学習内容を設定した。この題材では、いろいろな音の響きやその組合せを楽しみながら、即興的にまとまりのある音楽をつくり、楽器の材質や演奏の仕方の違いによる音色の特徴やそれらを組み合わせた音の響きのおもしろさを感じ取ることができるようにすることをねらっている。
教材として、現代音楽2曲を取り上げる。1曲目の「ハウスミュージック」は台所にある食器や料理道具を叩いたりこすったりして出る音を組み合わせ、数名の児童がグループでつくった楽曲である。2曲目の「月光への碑文」は、声による音群と金属打楽器の音が組み合わせられてできた神秘的な雰囲気をもつ曲である。どちらも材質の違う音具や楽器など、いろいろな音を組み合わせでできている音楽である。これらの楽曲を聴くことによって、音の組合せによる響きの違いを感じ取ることができるとともに、パターンミュージック(反復をもとにした音楽)や拍節的でない音楽などのおもしろさを知ることができる。また、様々な表現の仕方を知ることにより、児童の音楽観を広げることができると思う。
- 本学級の児童は、1年生の時から「音の宝探し」などの音楽ゲームを楽しんできた。2年生の時にはいろいろな打楽器の音色の特徴を調べ、「かぼちゃ」の曲に2人でつくった2声のリズムを取り入れ、自分で選んだ楽器で演奏する活動に取り組んだ。4年生では、「ボイスリズム」づくりにも取り組み、言葉の重ね方を工夫してまとまりのある音楽をつくって表現することを学習した。これらの経験を通して、音を注意深く聴くことができるようになり、自分なりに工夫して音楽をつくる楽しさを感じることができるようになってきている。
- 指導に当たっては、「音楽ゲーム」を導入として取り入れる。音楽ゲームは、児童が自ら選んだ楽器の音や演奏の仕方をゲーム感覚で組み合わせ演奏する活動である。この活動を通して、即興的な音楽づくりを楽しみながら、同じ材質の物や異なった材質の物を組み合わせで生じる音の響きの違いやおもしろさに気付くことができるようにしたい。また、友達の音を注意深く聴きながら、音と音とのかかわりを考えて思いをもって音を出すことの大切さも感じることができるよう活動の仕方を工夫したい。
現代音楽を聴く活動では、音の組合せによる響きの違いに関心をもつことができるように、「何で音を出しているか。」「どんな音色が組み合わせられているか。」などの言葉がけをして、音の響きに児童の注意を向けていきたい。楽器ではない意外な物の組合せやその組合せ方によるおもしろさを知ることによって、児童の音楽観を広げ、自分たちの音楽づくりにも生かすことができるようにしたい。
音楽づくりでは、いろいろな音の響きや組合せを工夫し、自分たちのお気に入りの響きや美しい響きなどを見付けていく学習活動に焦点を当てる。「ボイスリズム」づくりでは、児童が付箋紙を用いて視覚的に言葉の重なり方がわかる楽譜を作成しながら音楽づくりを進めた。その楽譜を拠り所として、グループで様々な発想を出し合い試行錯誤する時間を十分確保するようにしたい。また、思いをもって音楽をつくる手掛かりになるように、学習過程で扱った重要な用語(音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなどをまとめたもの)を掲示しておいたり、前時までの学習を想起する場を設定したりしたい。
本学習を通して培われる力(音と音とのかかわりを考えて表現の仕方を工夫したり、音の組合せによる響きのおもしろさを感じ取ったりする力)を生かして、今後パートの働きや音の組合せを考えた上で、楽器を選択して器楽合奏をする学習などに発展することができるようにしたい。

4 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材の評価規準	いろいろな音色の特徴やその組合せによる響きの違いを楽しみ、意欲的に音楽づくりに取り組んでいる。	いろいろな音の響きの特徴やその組合せのよさやおもしろさを感じ取っている。	いろいろな音の響きやその組合せを工夫して、まとまりのある音楽をつくっている。
具体的評価規準	① いろいろな音を即興的に組み合わせて音楽ゲームをしたり、音の組合せの違う音楽を聴いたりすることを楽しんでいる。	① いろいろな楽器の音色の特徴や音の組合せの違いによる響きのおもしろさに気付いている。 ② いろいろな音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取っている。	① 思いをもっていろいろな音の響きやその組合せを工夫してまとまりのある音楽をつくっている。

5 学習指導計画（全4時間）

次	ねらい	教材	活動	時	学習活動（○） 学習内容（・）	〔共通事項〕 （音色）（音の組合せ）に 関するねらい	具体的 評価規準 評価方法
第一 次	いろいろな音の組合せによる響きの違いや拍節的でない音楽を楽しむ。	「ハウスミュージック」「月光の碑文」	音楽づくり	第1時	○ 音楽ゲームをしたり、音の組合せの違う音楽を聴いたりする。 ・ 思いをもった音の出し方 ・ 拍節的でない音楽	・ 音の組合せ方による響きの違いを楽しむ。	アー① 態度や表情の観察 発言やつぶやきの内容 ワークシート 学習カード
			鑑賞	第2時	○ 楽器の音を選び、音楽ゲームをする。 ・ 楽器の音色の特徴 ・ 組合せ方による響きの違い	・ 様々な打楽器の音色の特徴や組み合わせた響きのおもしろさに気付く。	イー① 活動の観察 発言やつぶやきの内容 学習カード
第二 次	思いをもってまとまりのある音楽をつくり、いろいろな音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取る。	音楽づくり	楽	第3時	○ グループで音を組み合わせて音楽をつくる。 ・ 自分なりの鳴らし方 ・ 音と音とのかかわり	・ 思いをもって音の組合せを工夫して音楽をつくる。	ウー① 活動の観察 演奏の聴取 発言やつぶやきの内容 楽譜 学習カード
			くり	第4時（本時）	○ 発表して聴き合う。 ・ 音の組合せ ・ 他のグループの演奏のよさ	・ いろいろな音の組合せの響きのよさやおもしろさを感じ取る。	イー② 活動の観察 演奏の聴取 発言やつぶやきの内容 楽譜 学習カード

6 本時の目標（4 / 4時間）

- ☆ いろいろな音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取ることができる。
- ★ 他のグループの演奏のよさに気付くことができる。

7 本時の展開

学習活動	教師の働きかけ 予想される児童の姿（・）	教師の支援（○） 個への支援（※）	評価（☆） かかわり合う力（★）
1 前時の学習を想起する。	<p>質</p> <p>前時はどんな学習をしましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボイスリズムの楽譜を楽器の音楽に変身させました。 	<p>○ 前時の学習のまとめを掲示したり、ふり返りカードを読んだりして、想起を促す。</p>	
2 今日のめあてを確認する。	<p>音の組み合わせに気を付けて、つくった音楽を発表して聴き合おう。</p>		
3 グループで音楽をつくる。	<p>指</p> <p>グループでつくっている音楽の音の組合せをさらに工夫して、よりよい音楽にしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長い音の次は短い音にしてみよう。 ・ トーンチャイムの音を高い順に鳴らすのを繰り返してみよう。 	<p>○ 音の組合せをどう工夫したか説明できるように助言する。</p> <p>○ 楽譜を指し示し、音楽の流れを意識して演奏できるように支援する。</p> <p>※ 出した音の意図を尋ねたり、具体的な楽器を提示し聴き比べて考えるように助言したりする。</p>	<p>☆ いろいろな音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取っている。</p> <p>【イー②】 活動の観察 演奏の聴取 つぶやきの内容 楽譜 学習カード</p>
4 発表して聴き合う。	<p>指</p> <p>つくった音楽をみんなで聴き合って、音の組合せのよさやおもしろさを見付けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トーンチャイムの音を高い順に鳴らすのがわかるかな。 ・ ○さんの音をよく聴いて出そう。 	<p>○ 児童に演奏する位置がわかりやすいように、床に印を付けておく。</p> <p>※ 演奏がうまくいかなかった場合は、楽譜を指し示す支援をしながら、再度演奏するよう促す。</p>	<p>☆ いろいろな音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取っている。</p> <p>【イー②】 活動の観察 演奏の聴取 発言やつぶやきの内容 学習カード</p>
	<p>発</p> <p>音の組合せのどんなところがよかったですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トーンチャイムの音が階段のように順番に鳴ってきれいでした。 ・ 金属の楽器ばかりで音がよく合っていました。 	<p>○ 発表内容を音楽を特徴付けている要素に分けて板書する。</p> <p>※ よさを見付けることができない児童には、楽譜や発表したグループの説明を手掛かりに、再度演奏を聴き、見付けることができるようにする。</p>	<p>★ 他のグループの演奏のよさに気付いている。</p>
5 本時のまとめをする。	<p>指</p> <p>今日の学習で気付いたことや感じたことをふりかえりカードに記入しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ楽譜なのに音の組合せ方で音楽が違っていました。 	<p>○ 板書を手掛かりにするよう助言する。</p>	

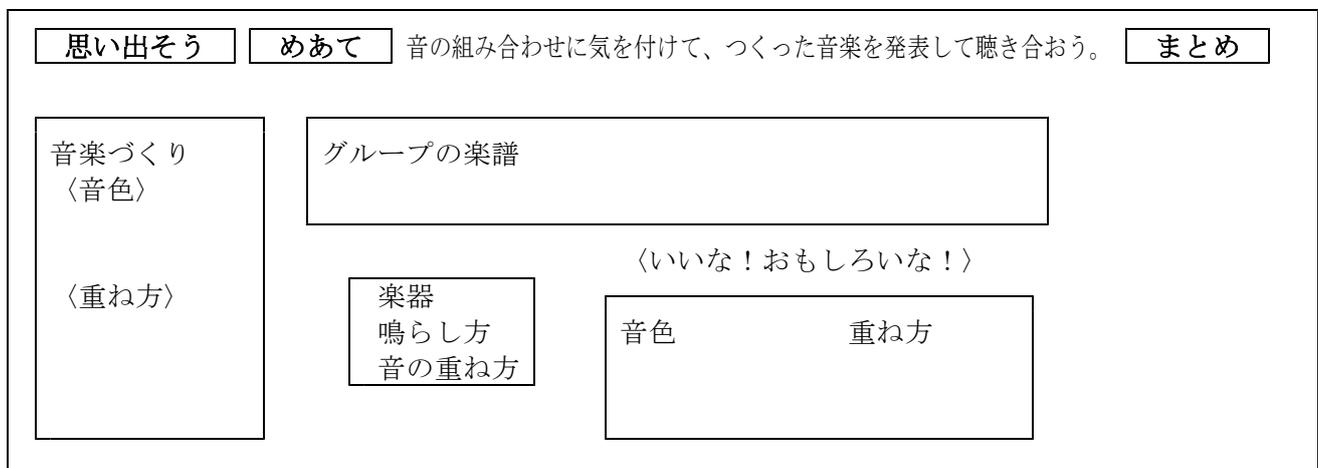
8 授業の視点

- ・ 児童は演奏したり聴いたりする活動を通して、いろいろな音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取っていたか。
- ・ 児童が音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取るための教師の手だては有効であったか。

9 本時の評価規準

学習活動における具体的評価規準	<p>イー② ☆いろいろな音の組合せによる響きのよさやおもしろさを感じ取っている。</p>
具体的な評価の方法やAと判断する場合の例	<p>○ 評価方法 演奏したり聴いたりしているときの様子や表情を観察したり、つぶやきや発言の内容を聴いたりして判断する。また、楽譜や学習カードも資料とする。</p> <p>○ Aと判断するキーワード ◇ 演奏をよりよくするための考えや気付き ◇ 音の組合せを意識して演奏する表情や態度 ◇ 音の組合せに関する具体的な発言や記述</p> <p>Aの対象となるのは、音に注意深く耳を傾け、音の組合せ方のよさやおもしろさを感じ取って、表現したり聴いたりしている児童である。 音楽づくりでは、演奏をよりよくしようと自分なりの根拠をもって音の組合せを考えて発言したり、試した演奏に対して気付きを表現できる児童を、発表して聴き合う場面では、他のグループの演奏のよさを感じ取って具体的な言葉で発言したり、学習カードに記述したりしている児童をAの対象としたい。</p> <p>○ Cと判断する子どもへの働きかけ グループの中で演奏していても、友達の音をよく聴かないで音を出したり、音と音とのかかわりを考えずに演奏したりする児童がいると考える。どんな思いをもって音を出したか、また出した音が自分の出したい音であったか問いかけたり、教師が模範を示したりして感じ取ることができるようにしたい。 また、他のグループの演奏を聴く場面では、楽譜を手掛かりにしたり、演奏者による工夫の仕方の説明を聴いたりして感じ取らせていく。</p>

10 板書計画



11 準備物

前時の学習を想起する掲示物、グループの楽譜や使う楽器を分けたかご、付箋紙、板書用上質紙